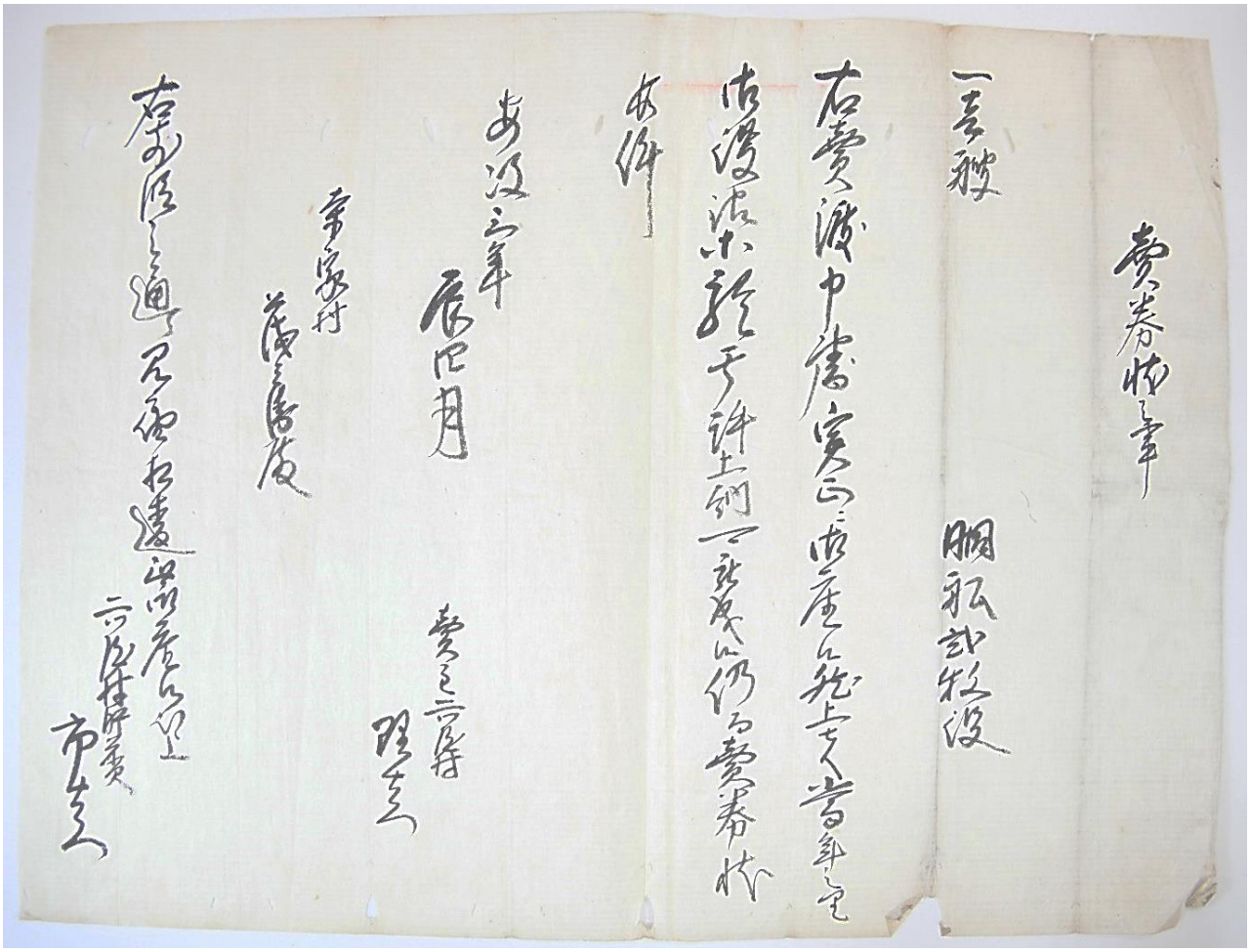
かほく市史編さんだより

第１号　令和４年（2022 年）10 月 15 日



「金津家文書」より「胴船一艘売券状」安政３（1856）年４月

売券状之事
一、壱艘　　胴船弐枚役
右売渡申処実正ニ御座候、然上者当年より
御役銀等於其許上納可被成候、仍而売券状
如件
安政三年
辰四月　　売主二ツ屋村
理右衛門
寺家村
茂兵衛殿
右前段之通り見届相違無御座候、以上
二ツ屋村肝煎
市右衛門

この書状は、二ツ屋村の理右衛門が、胴船一艘を寺家村（現羽咋市）茂兵衛へ売り渡した売券状で、二ツ屋村肝煎市右衛門がそのことを承認したことが書かれています。二ツ屋で鰯などの漁業が当時さかんに行われていたことが伺えます。

実はこの書状は、市内の方から自宅に史料があるとの情報を得て確認させていただいたものです。

こうした史料は、今後の市史編さんに活かすとともに、かほく市の貴重な財産として後世に残していくことも大切なことと考えています。

ぜひ、ご自宅などに古い文書や写真がありましたら、かほく市史編さん室までお知らせ下さい。

かほく市史編集専門委員会委員長 より ごあいさつ

東四柳　史明

この度かほく市では、市の合併 30 周年にむけて、本年度より令和 15 年度までの 12 年計画で、かほく市史編さん事業に着手することになりました。宇ノ気・七塚・高松の３町合併によって成立した、原始・古代から現代に至る新しいかほく市の歴史像の構築と、市内に遺存する史資料の調査を通して、その保存をはかることを目指します。

市史の内容は、図説・資料編・通史編の全 10 冊を刊行する予定です。また事業期間中には、本誌の発行を通して、市史編さん事業のその時々の状況をお伝えする一方で、調査の過程で得られた情報や研究成果を、市民の方々にお知らせするための講座の開催も予定しています。

事業の完成にむけて、皆様のご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

編集専門委員と刊行計画のご紹介

氏　名	役　職	主な担当分野
東四柳　史　明	金沢学院大学名誉教授	総括
瀬　戸　　薫	かほく市文化財保護審議会	古代・中世部会長
袖　吉　正　樹	かほく市文化財保護審議会	近世部会長
山　本　吉　次	前金沢大学附属高等学校長	近代部会長
平　野　　優	前小松短期大学教授	現代部会長
垣　内　光次郎	石川県埋蔵文化財センター参事	考古部会長
木　越　祐　馨	加能地域史研究会代表委員	寺社部会長
小　林　忠　雄	加能民俗の会会長	民俗部会長
寺　口　　学	能登町教育委員会学芸員	集落部会長

かほく市史編さんにあたって、「かほく市史編さん委員会」が編さん計画の概要を決定し、「かほく市史編集専門委員会」が部会ごとに史料をまとめ、発刊することとしております。編集専門委員の皆様は左の表の通りです。

▲近世史料調査の様子

▲教育者 桜井祐男氏（横山出身）が創設した芦屋児童の村小学校（兵庫県）　大正 15 年

刊行年度	種　別	分　野
令和　６年度	図説編	かほくの歴史（特筆すべき事象を写真中心に）
令和　７年度	資料編１	古代・中世（飛鳥時代～安土・桃山時代）
令和　８年度	資料編６	寺　社（寺・神社の歴史）
令和　９年度	資料編７	民　俗（農業・漁業・工業、人々のくらし）
令和１０年度	資料編３	近　代（明治時代～戦前）
令和１１年度	資料編５	考　古（遺跡・遺物）
令和１２年度	資料編２	近　世（江戸時代）
令和１３年度	資料編４	現　代（戦後～現在）
令和１４年度	資料編８	集　落（各地区の紹介や風俗）
令和１５年度	通史編	通　史（編年体で歴史を著したもの）

市史は右上の表の順番で刊行予定です。

なお、刊行順につきましては、それぞれの分野における調査研究の難易度や進展具合等により決定させていただきました。

▸賀茂神社調査の様子

市民大学校講座「歴史コース」のご紹介

6～7 月にかけて、かほく市民大学校の歴史コースが開催され、市史編集専門委員である 3 名の方々が講師を務めた回をご紹介します。

このコースの講座には毎回大勢の参加者があり、たいへんに好評を得ています。単に歴史が好きというだけではなく、かほく市の歴史の変遷、自分の生まれ育った故郷の昔や成り立ちに興味がある人が多いことの表れとも言えそうです。

６月２日（木）　「末守（末森）合戦と桜井三郎左衛門」

講師：瀬戸　薫　氏（古代・中世部会長、市文化財保護審議会委員長）

「末守（末森）合戦」は、安土桃山時代の天正 12 年 9 月（1584 年 10 月）に行われた攻城戦です。落城寸前の急報を聞いた前田利家は、兵を率いて敵軍の手薄な海岸路に沿いながら進軍し、無事逆転勝利をおさめました。この時の海岸路を案内したのが「桜井三郎左衛門」と言われています。

講座では、瀬戸先生ならではの丁寧な研究による、史料ごとにおける表記や史実の違いについて説明されました。

６月２９日（水）　「上賀茂神社と加賀国金津荘」

講師：東四柳　史明　氏（市史編集専門委員長、金沢学院大学名誉教授）

「上賀茂神社」は「葵祭」で有名な京都市の「賀茂別雷神社（かもわけいかづちじんじゃ）」の通称です。現在のかほく市のほぼ全域が、かつてはこの「賀茂別雷神社」の所領・荘園、つまり「金津荘（かなづのしょう）」でした。

応仁の乱の災いを避けるため「上賀茂神社」の御正体（かけ仏）と御神宝を、かほく市横山の「賀茂神社」に遷座したとされる室町時代中期の文書が各地に残されています。勢力を誇った当時の「上賀茂神社」と「加賀国金津荘」との関係について、東四柳先生自らの研究半生を交えながらユーモアたっぷりにお話されました。

７月１４日（木）　「中世かほくに生きた人々　～金津荘御百姓からの手紙～」

講師：寺口　学　氏（集落部会長、能登町教育委員会学芸員　かほく市出身）

鎌倉時代や戦国時代に金津荘の百姓らが、荘園領主側である「上賀茂神社」などとやり取りした資料が現代に残されています。これらの一部には、差出の名前の下に武士や貴族が使用した花押（サイン）が書かれており、金津荘民の中でも、指導者的立場にあった有力者たちが用いたものであることなど紹介されました。

領主の命令に素直に従うのではなく、少しでも年貢額を交渉して減らそうとしていた人々のたくましさを垣間見ることができると解説されていました。

コラム　かほく市の歴史お宝

「二ツ屋Ｅ遺跡」の発掘調査

この遺跡は縄文時代～古代（９世紀頃）にかけての遺跡で、弥生時代末には集落があったことが確認されました。現在は砂丘地ですが、地表からおよそ１８ｍ 下で遺跡が確認されたことから、当時から少なくとも１８ｍも砂がその上に積もったことが分かります。

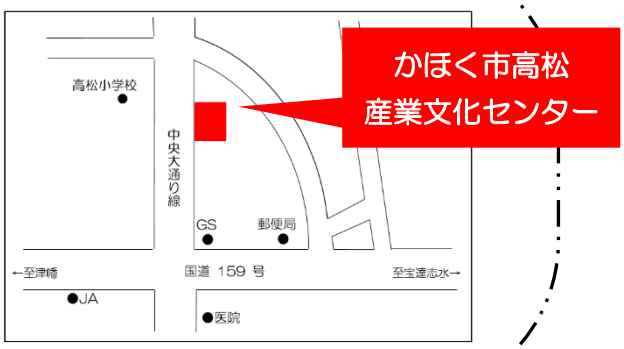
この遺跡の北東は現在、大海川と水田地帯が広がっています。しかし当時は、夏栗から前田川（宝達志水町）辺りまで「入江」または「潟」であったとされています。その後、海面が下がって「低湿地」化したため、時代が進むごとに水田として利用されるようになっていったようです。

令和４年７月２６日、市民大学講座に参加した方々に、出土した土器や石器を洗う体験をしてもらいました。洗った遺物の一部は、うみっこらんど七塚の海と渚の博物館にある「かほくふるさと展示室」に展示されていますので、興味のある方はぜひご覧ください。

▲二ツ屋Ｅ遺跡出土の土器を洗う様子
（市民大学講座より）

編さん室の歩み（活動記録）

4 月 18 日（月）	第 1 回 編集専門委員会 会議	8 月 1 日（月）	史料収集ご協力依頼チラシご案内
5 月 18 日（水）	第 2 回 編集専門委員会（第 1 部）会議	8 月 2 日（火）	古代・中世部会 寺社調査
5 月 19 日（木）	第 2 回 編集専門委員会（第 2 部）会議	8 月 8 日（月）	現代部会　果樹関連施設調査
6 月 1 日（水）	第 1 回 編さん委員会 会議	8 月 10 日（水）	第 1 回 近世部会 会議
7 月 2 日（土）	第 1 回 近代部会 会議	9 月 11 日（日）	第 1 回 民俗部会 会議
7 月 7 日（木）	第 1 回 寺社部会 会議	9 月 12 日（月）	聞取り調査・個人宅（近代）
7 月 9 日（土）	第 1 回 現代部会 会議	9 月 15 日（木）	聞取り調査・個人宅（現代）
7 月 30 日（土）	第 1 回 考古部会 会議	9 月 22 日（木）	聞取り調査・個人宅（現代）
8 月 1 日（月）	第 1 回 古代・中世部会 会議	9 月 29 日（木）	聞取り調査（現代）

お問合せ・資料の提供はこちらまで

〒929－1215
かほく市高松ク４２番地１
かほく市高松産業文化センター３階
かほく市史編さん室
TEL：（076)281-3455
FAX:（076）281-3521
E-mail：shishi@city.kahoku.lg.jp